



より一層

農政に多様な

農家の声を

反映させます!!

できるようにすると同時に、中山間の土地改良を進める必要があると思います。

あわせて、災害による農家の離農を防ぐため、収入保険と農業共済の加入率を上げていくことも必要です。ただ、収入保険については、十分な制度内容になっていないため、見直しを早急に進めていきます。施設などインフラは農業共済、作物は収入保険とはつきり言えるくらいの水準まで、精度を高めていきたいと考えております。

現在進行形ですが、豚コレラも脅威です。防疫体制の徹底やワクチン接種の正しい理解を図りながら、現在農水省と伝播の原因になっているイノシシをどう駆除していくのかという議論を深め



農林水産委員会(畜産物等の価格安定等に関する件)
(18年12月11日)

ています。今後、予防ワクチンが接種できる環境整備を進めるべく、防疫指針の改定作業を行います。豚コレラの早急な終息に向けて全力で取り組んでいます。

**後継者確保へ
幅のある支援展開**

農業の一番の課題は、農業後継者と労働力の確保です。一定の所得水準を超えると分かれれば、農家の子どもたちは何も言わなくても継ぐものです。農業が生業として成り立つように経営向上を後押しし、努力する人に支援が行き届くように農政を改善していきます。また、就農者を増やすため、親元就農者への支援も充実させていきたいと思えます。お孫さんが祖父母を継ぐケースも増えてきています。親元就農する農家も「農業次世代人材投資事業」を利用できるようにするなど、幅を持たせた支援にしていくなさないと考えます。

外国人材をめぐっては、改正出入国管理法に基づく特定技能制度がスタートしましたが、費用が高いのが実情です。農家負担が減るように改定していきたいと考えています。

一丁目一番地は 家族経営

多くの皆さまのご尽力によって参議院議員に初当選したのが2016年7月、それから3年が過ぎ、折り返し地点を迎えました。当初、農政は規模拡大一辺倒の議論になっていたため、家族経営の大切さを訴え、維持していくことを私の政策の「一丁目一番地」と位置付けて取り組んできました。

農業は、大規模農家だけで維持できる産業ではありません。条件が良くない農地が多い日本において、農道や用排水などの環境を維持するには、それらを支えあう農家の数が必要です。戸数や農業生産額で見ても、中小規模農家が大半を占めており、



自民党 農林部会等合同会議(19年9月6日)



JA胎内市 通常総代会(19年4月20日)

和牛遺伝資源PT(19年6月7日)

JAは収益増へ、 もうひと頑張りを

これまで全国のJAが自己改革に取り組み、成果を上げています。一方で、もつともつとJA職員のみなさんができる改革があると感じています。農家の方が一日でも長く経営ができるように、取り組むべきなのは、再生産可能な農産物価格の維持です。JAは消費者団体を巻き込み、全国展開していくべきです。



JAグループ農畜産物商談会(19年3月13日)

兼業農家も大きな役割を担っています。規模拡大一辺倒では生産基盤を維持できないのは明らかです。

地方では農業を含めた1次産業が基幹産業で、たくさんの雇用を生んでいます。しっかりと経営体の数を維持し、多様な経営体が共存できるような農政の確立に努めてまいります。

現場感ある政策を

この3年間、農業現場を歩き農家の声に寄り添ってきました。山積する農業課題の解決策として政策は十分に機能しているのだろうか。私が青年部で活動していた頃は、今以上に現場感がありダイナミックに政策が決まっていたように感じます。今、政策に必要なのは現場感です。

例えば、政府は農業を成長産

近年、農業への風当たりは厳しいものがありました。農業が必要だと言われる時代はすぐにやっつけます。国際的な食料環境はこの6、7年で激変しており、これまでのように海外から農畜産物を安価にすぐに調達できる時代ではなくなります。だからこそ今、JAはもうひと頑張りして、収益アップに取り組んでほしい。これまでの固定観念から抜け出し、供給が追い付いていない単価の高い作物に挑戦するとか、農機のリース事業に取り組むとか、できることはたくさんあります。

**盟友よ！農政運動に
貪欲になれ！**

農政は農業経営の指針とも言えるもので、うまく利用して経営することが重要です。ですが、盟友に限らず最近では農政に無関心な人が増えているように感じています。青年部は、JAグループを後ろ盾に、政策立案に携われる立ち位置にいます。受け身ではなく、青年部で勉強会を開くなどしてもっと政策を理解して活用し、課題があれば私に伝えてください。

業だと強調し、収益アップのためにコスト削減をするよう働きかけていますが、そこに大きな増収の可能性はありません。私が就農した頃からずっとコスト削減に取り組んできましたが、農家目線で考えればさらに1、2割を削減するのは現実的でないからです。それよりも農産物の販売単価を上げ、再生産可能な価格をつくるのが重要です。

最近ようやく一部の農水省職員が、私のことを現場が分かる議員として認識してくれるようになりました。まだまだ省全体に伝わるのは難しいのですが、今後、現場発の議員としてさらに農家の思いを伝え、政策の歯車をうまくかみ合わせていきます。

自然災害や 伝染病への備え万全に

3年間を振り返ると、西日本豪雨や北海道胆振東部地震など、自然災害が多発しました。最も感じたのは、区画整理が早く行われた地域の排水ポンプの老朽化が進んでいることもあり、近年の大雨に対応できる設備になっていないということです。1時間に70ミリ程度の大雨を処理



特に全青協の役員は、自民党の部会等に出て議論の進捗状況を把握し、議員の発言で足りない部分は政策提言をしていくらしいの熱意が必要です。今年も青年部のいくつかのブロックで、直接私に意見を持ってきてくれるところが出てきました。私も呼んでいただけたら、時間の許す限り出向いてお話しします。ぜひ私を呼んでください。青年部だけでなく、女性部や生産部会も巻き込み、たくさんのお話したいと思います。みなさんが感じた課題を解決し、より現場目線の農政に変えていくのが私の役割です。

毎年全都道府県に出向くとともに、3年間かけて全国のJAをくまなく回り、みなさんに情報提供をしながら、意見を吸い上げて農政に反映させていきます。今後も山田俊男議員とともに、全力で取り組みます。